

令和 8 年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画		
学校運営方針	<p><スクールミッション></p> <p>【望ましい勤労観と職業観を養い、生涯にわたって学び続ける力と態度を育成する学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人格の尊重と真理を愛する精神を育むとともに規範意識の向上を図り、人から信頼され社会から必要とされる豊かな人間性を養う。 ・ 主体的に学習に取り組む意欲と確かな学力を身に付けさせ、達成感や自己有用感を高め、生涯にわたって学び続ける力と態度を育成する。 ・ 能力、興味、適性に応じた進路学習や社会貢献の経験をとおして、望ましい勤労観と職業観を養い、将来の地域社会の発展に貢献できる力を育成する。 	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会で生きて働く知識・技能を身に付け、生涯にわたり主体的に学び続ける態度を育成します。 ② 基本的な生活習慣を確立するとともに、社会規範を尊重する態度を育成します。 ③ 自他の個性や多様な価値観を尊重し、他者と協調・協働できるコミュニケーション能力を育成します。 ④ 地域社会とのつながりを大切にしながら、地域の諸課題について取り組み、地域に貢献する人材を育成します。 	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① タブレット端末等の ICT を積極的に利活用し、複雑化している現代社会の課題解決につながる学力の育成に取り組みます。 ② 大学講義体験、職場見学、インターンシップ等の体験的な学習や探究的な活動をとおして、将来を見とおしたキャリア教育に取り組みます。 ③ 学校生活全般や特別活動をとおして、社会規範やマナーを習得させるとともに、生徒の発達を支援する教育に取り組みます。 ④ 学校行事や対話的な学習活動をとおして、多様な価値観や多面的・多角的なものの見方・考え方を学び、自他を大切にすることを教育をおこないます。 ⑤ 探究的な活動やボランティア活動等を通じて地域社会と連携・協働した取組をおこないます。 	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<p>～このような生徒を求めています～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 将来の夢や目標を自ら語り、進路実現をめざして学び続ける生徒 ② 基本的な生活習慣を身に付け、社会規範やマナーを守る生徒 ③ 自己を理解し、他者を尊重し、互いを認め合い協調・協働することができる生徒 ④ 地域社会の課題に関心を持ち、積極的に地域社会に貢献しようとする生徒 	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>生徒及び保護者アンケートの結果、学校生活における満足度は約 9 割で一定の評価を得ることができた。これまでの取り組みの成果と言える。反面、主体的に学習に取り組む割合が低いことから、引き続き授業改善に取り組み、総合的な探究の時間の見直し、進路指導の充実を図り、学ぶ姿勢を育てたい。働き方改革の視点からも ICT ではデジタル採点システムの活用割合を増やしたい。また、学校関係者以外にも、本校の取り組みが伝わるよう広報活動を工夫していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の積極的な利活用による授業改善の推進 ・ 主体的に学ぶ姿勢の醸成と基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一台端末を効果的に活用し、生徒の主体的な学びを促進。 ・ 探究活動をとおした学びに対する知的好奇心の涵養と家庭学習の定着。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の夢や目標の明確化 ・ 進路実現を目指す継続的な学び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な学習や探究的な活動をとおしたキャリア教育の推進。 ・ 高大連携協定を活用した進路学習。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的・多角的な思考力・判断力の育成 ・ 周囲と協調し尊重する人間関係の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他を理解し、他者を尊重する態度の育成 ・ 多様な人々との人間関係を構築するコミュニケーション能力の育成。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と地域との連携促進 ・ 教育活動の発信と開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小須戸地区教育機関・行政機関をはじめ、地域との連携を深め、協働的な取組の実践。 ・ 学校HP等への情報発信により開かれた学校づくりを推進する。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
○ICTの積極的な活用による授業改善の推進 ○主体的に学ぶ姿勢の醸成と基礎学力の定着	一学年	落ち着いた学習環境を整える	高校生としての基本的な生活習慣を確立する。 時間の遵守、身だしなみ、マナー指導等を通して、落ち着いた学習できる環境を整える。	
		基礎学力の定着を促す	日々の授業や課題等に積極的に取り組むことを意識させ、学習習慣の確立を促す。 成績不振者への声かけや補習等を継続的に行う。	
	二学年	学習指導の充実	落ち着いた授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。 定期考査や課題等への取り組みを通し学習習慣を身に付けさせる。 日々の学習と進路実現との関連に気づかせ、学校生活へのモチベーションが維持できるよう支援する。	
			基礎的な知識・技能の習得、そして、思考力、判断力、表現力の育成に努める。 成績不振者や進学希望者に補習を実施し、目的に応じた支援を行う。	
			最高学年としての自覚を高め、部活動や生徒会活動におけるリーダーとして、学校行事等への主体的な取り組みを促す。 自他の違いを理解・尊重し、お互いに配慮できる集団づくりに取り組む。	
			個々の進路を見据え、学習の動機付けを工夫しながら、授業の内容や指導方法を工夫改善する。 進学補習の充実、成績不振者への補習について、各教科・進路指導部と連携する。	
	三学年	学校生活の充実	最高学年としての自覚を高め、部活動や生徒会活動におけるリーダーとして、学校行事等への主体的な取り組みを促す。 自他の違いを理解・尊重し、お互いに配慮できる集団づくりに取り組む。	
		学習指導の充実	個々の進路を見据え、学習の動機付けを工夫しながら、授業の内容や指導方法を工夫改善する。 進学補習の充実、成績不振者への補習について、各教科・進路指導部と連携する。	
	教務	業務の効率化	校務支援システムやICT機器を活用することで業務を効率化し、軽減する。	
		視聴覚設備の整備	視聴覚機器の充実に努め、職員利用の利便性向上を図る。 校内視聴覚設備を把握し、情報提供を行う。	
	進路指導部	一人一台端末を効果的に活用し、進路情報を収集する。	デジタルツールを活用し、入試情報、学部・学科の詳細、就職情報などを効率的に検索・比較する。 オンラインガイダンス・説明会に参加することで、多様な分野の声を聞くよう促す。	
		「適性検査」や「基礎力診断テスト」を実施して進路選択に活かす指導を行う。	「適性検査」の結果をフィードバックすることで、自己理解を促し、主体的な進路選択ができるように支援する。 「基礎力診断テスト」とテストに連動した事前・事後の学習を行うことで、基礎学力向上のための学習サイクル構築を目指す。	
	保健生徒会	タブレットを用いて意見集約・情報共有を行う。	タブレットを用いてアンケートを行い、全校生徒の声を聞き、各行事の企画・運営に反映させる。 タブレットを用いて生徒会の諸活動を分かりやすく伝え、生徒会活動を身近なものにする。	
	国語	一人一台端末を効果的に活用し、生徒の主体的な学びを促進する。	調べ学習やプレゼンテーション等で効果的にICT機器を使用し、授業内容の理解を深める。(生徒)	
			授業でICT機器を効果的に使用し、生徒の授業内容の理解を深める。(教員)	
			連絡やリモート授業でICT機器を使用し、円滑な授業サポートを行う。(教員)	
		基礎学力の定着を目指す。	基礎的な事項を反復しながら授業を進め、内容の理解を促す。 課題テストや小テストを計画的に実施し、適宜課題を課すことで家庭学習の習慣を身につけさせる。	
	成績不振者に対して、日常的にサポートを行う。	日々の授業の中で適性や習熟度を見極めながら、生徒個々の苦手な分野を把握し、必要に応じて個別指導を行う。 成績不振者に対し補習を実施し、指導の充実を図る。		

○ICTの積極的な利活用による授業改善の推進 ○主体的に学ぶ姿勢の醸成と基礎学力の定着	地歴公民	学習習慣の定着をはかり、学力のさらなる向上を目指す。	新聞記事等、様々な情報を活用し、実社会の動向に意識・関心を向けることができるよう指導の工夫をはかる。		
			ICTを用いた授業や、図書館での学習等により、主体的に考え、課題を発見し、解決する力を身に付けさせる。		
			基礎学力不足や学習習慣の身についていない生徒を早期に発見し、課題の提出や学期ごとの補習・再テストなどを実施し、支援をはかる。		
	数学	基礎学力の定着と一層の向上に努める。	基礎的な計算の反復練習により、確実な計算力を身につけさせる。		
		教材研究・授業改善に励み、分かり易い授業を実践する。	成績不振者に対して定期的に補習を行う。		
			生徒の反応や定着の度合いを見極め、効果的なICTの活用など日々の授業改善に取り組む。 生徒の実態に即した適切な教材を積極的に開発しながら、学習意欲を喚起させる。		
	家庭学習の定着。	課題を適切に課すとともに、考査前の演習の指導をとおして、主体的な学習へと繋げる。			
	理科	ICTを活用した授業改善	ICTを活用し、図や動画を提示することで学習内容の理解を促す。 課題提示等にICTを活用し、生徒の主体的な学習を支援する。		
		基礎学力の定着と向上	課題や小テストの実施を通して、基礎学力の定着と向上を図る。 成績不振者に対して、補習等を実施し基礎学力の定着を図る。		
	保健体育	ICTを活用し、視覚的に理解しやすい授業を通して学習内容の定着を図る。	動画撮影を活用し、運動のフォーム確認や自己分析を行う。		
		個に応じた目標設定と振り返りを通して、主体的に学ぶ態度を育成する。	ペアやグループ活動を取り入れ、生徒同士の関わりを促進する。		
	芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり、芸術を愛好する心情を育てる。	ICTなどを利用した授業を行い、調べ学習やレポート作成等を通じて生徒の理解を深め、感性を高めるように努める。		
	英語	ICTの積極的な活用	ICTを用いた授業を行い、効率的に進める。 タブレット端末を用いて、提出や発表等に活用する。		
		基礎学力の定着	分かりやすい授業を行うことを基本とし、基礎学力を向上させる。 計画的に単語テストや小テストを行い、学力の定着を図る。		
		家庭学習の習慣化	ノート作りや課題提出への取り組み等を通して、予習・復習の習慣付けを指導する。		
	家庭	ICTを効果的に活用し、生活に必要な知識や技術を身につけさせる	ICTを用いて新しい情報や資料をわかりやすく提示し、現在の生活を見つめ問題意識をもたせるように指導する。 調べ学習やホームプロジェクトで効果的にICTを活用し、主体的な学習を支援する。		
	情報	ICTの積極的な利活用	パワーポイントのスライドを活用した効率的な授業を行う。		
		基礎学力・技術の定着と向上	ワープロ入力や表計算などの検定試験問題を活用するなど、基礎学力・技術の定着を図り、情報の発信力を養う。		

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
○将来の夢や目標の明確化 ○進路実現を目指す継続的な学び	一学年 進路目標の設定を促す	「スタートアップ講演会」「上級学校・企業研究」などを通して、進路に対する意識付けを行う。		
		地域探究等を通して、将来の自分の在り方を考える。		
		個別面談やアンケート調査を基に、進路に関する相談に丁寧に対応する。		
		進路実現に向け、継続的に取り組む	模擬試験や各種検定に積極的に挑戦するように促す。	
	二学年 進路指導の充実		総合的な探究の時間を活用し、インターンシップ、大学出張講座、各種進路ガイダンスを行う。そして、個々の生徒が進路目標を明確に定め、進路探究を主体的に進められるよう支援する。	
			入試、入社試験に対応し得る表現力を身に付けさせるため、小論文、面接、礼法指導を実施する。	
			進路に対する悩みや相談に対応するため、個別面談やアンケート調査を実施する。	
	三学年 進路指導の充実と進路実現		進路指導部、保護者と連携し、個々の生徒に応じた進路相談を丁寧に実施する。	
			就職について、社会状況を見極め長期的な視点から自己の進路を考えるよう、しっかりとした心構え・準備を指導する。	
			進学について、推薦入試等への対応を強化し、面接・小論文指導で全職員の協力を得て、計画的に実施する。	
	教務 生徒の学習環境の整備 図書館利用の促進		学年、教科、分掌等との連携を密にし、学習環境の整備を図る。	
			「図書館だより」を発行し、新着図書紹介など情報提供を行う。	
			生徒や職員のリクエストを受け付け、蔵書を充実させる。 「図書館だより」や館内表示を通じ、利用マナーを啓発する。	
	進路指導	体験的な学習や探究的な活動をとおしてキャリア教育を推進する。	1・2年生を対象に、進路意識を啓発する講演会を行う。	
			1・2年生を対象に「卒業生講話」を企画し、卒業生から生の声を聞くことで自己の進路について具体的なイメージを持たせ、進路実現への動機付けとする。	
			探究活動における学びのプロセスに合わせてプレゼンテーションの機会を設け、また作文・小論文指導を行うことで総合型や学校推薦型選抜入試、就職試験対策につなげる。	
		高大連携を活用した進路学習を実施する。	1年生を対象に「上級学校見学」を実施し、大学における学びについて理解を深める。 2年生を対象に「大学出張講義」を実施し、学問分野とその先にある職業への理解を深める。	
		進路希望達成のために実践的な力を身につけさせる。	大学等進学希望者に対して、学年・教科と連携して個別指導を実施する。 就職希望者に対して就職講座を企画し、履歴書の作成や面接指導を行う。 教科と連携して、各種模擬試験、資格試験の受験を促す。	
国語	進路希望の実現に向けて、他分掌と連携を図る。	学年・進路指導部と連携し、小論文指導を行う。 生徒の適性や個別の習熟度を見極め、個々の進路希望に応じた効果的な個別指導を行う。		
		大学進学等を目標とする生徒に対して、学学年と連携しながら実践的な内容の個別添削指導、過去問題添削指導を行う。		
地歴公民	進路希望の実現に向けた学習支援をおこない、進路に対する意識づけの強化をはかる。	学年・進路指導部と連携し、進学指導や小論文指導をおこなう。 個々の希望者に対応した学習指導をおこない、進路実現に取り組む姿勢を養うとともに、実力の養成を図る。		
数学	進路希望の実現への対応。	個々の進路希望に対応した個別指導を継続的に行い、発展的な課題を通して実践力を身につけさせる。		
理科	多様な進路目標への支援	高校での学習と卒業後の学習のつながりを考えられるよう、各科目の特徴を丁寧に説明する。		
		進路相談に積極的に応じ、個別指導を行う。		

○将来の夢や目標の明確化 ○進路実現を目指す継続的な学び	保健体育	運動の意義を理解し、生涯に渡って運動に親しむ態度を育成する。	スポーツテストを活用し、自身の体力や運動能力の変化を把握させる。 多様な運動種目を経験させ、自分に適した運動を見つけさせる。		
	英語	進路目標の達成	授業や単元ごとの目標を明確にし、英語によるコミュニケーション活動を含む授業を実践する。 個々の進路に応じて個別指導を行う。		
	家庭	生涯を見通して、生活課題について考えさせる	生涯を見通した視点で生活を捉え、課題の発見・課題解決能力を身につけられるよう指導する		

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
○多面的・多角的な思考力・判断力の育成 ○周囲と協調し尊重する人間関係の構築	一学年 課外活動への積極的参加を促す	各種委員会、生徒会活動、学校行事、部活動への主体的取り組みを促す。 ボランティア活動や体験活動の案内を積極的に行い、参加を推奨する。		
	一・二学年 学校生活の充実	学校行事や生徒会活動、部活動に主体的に協働して取り組むことができるよう支援する。 集団行動における自己の役割を果たし、他の地域の文化に触れ、見聞を広げさせるため、修学旅行および効果的な関連学習を企画する。 総合的な探究の時間を通し自己への探究を深め、自己の進路課題に対し主体的に解決することができるよう支援する。 自分と他者とを尊重する心を育むため、SOSの出し方教室や、性に関する授業、そして、人権教育同和教育等を実施する。		
		生徒指導	規律ある落ち着いた学校生活を送ることができるよう、頭髪・服装指導、時間を守る指導等を実施する。 SNSに関するトラブル防止のため、SNS・スマホに関する授業を実施する。 いじめのない円滑な人間関係づくりや不安・悩みに対する支援を行うため、生徒面談を実施する。	
			三学年 生徒指導の徹底	頭髪・服装等身だしなみ指導について、個々の実情に応じて粘り強く対応する。携帯・スマホのルールやマナーを徹底させる。
	生徒指導	いじめ防止の対策	いじめ等のない、安心した学校生活を送るため、様々な機会を通して生徒への指導を工夫する。	
		頭髪・服装指導の徹底	規律ある学校生活を送らせるために、全職員で頭髪・服装指導を徹底する。 ・朝の玄関前指導（4月・6月・9月・10月） ・頭髪・服装検査の実施（4月・6月・9月・11月・1月） ・制服の正しい着こなしについて指導する。 ・変形・改造制服の改善に取り組む。	
		基本的生活習慣の確立	学年・学級担任と連携を密にし、全職員が協力して指導にあたる体制を維持させる。（街頭指導・校舎内の巡回・各種届けの提出）	
		危機管理意識の育成	機会をとらえた講話や集会指導により、盗難、薬物乱用、性被害、交通安全、携帯電話等による出会い系サイトやウェブサイト上のトラブルなどの知識を深め、生徒自らがこれらの被害から自己防衛する意識を啓発、育成する。	
	人権意識の啓発	人権・同和教育推進委員会、男女平等教育推進委員会との連携を図りながら、生徒の人権意識の啓発、高揚を目指す。		
	進路指導	進路選択の場面で、生徒が自ら考え、意志決定する指導を行う。	探究活動の中で、収集した情報を整理して自分にとっての意味を見出し、納得のいく意思決定を行うように、生徒自身が試行錯誤するプロセスを設ける。	

○多面的・多角的な思考力・判断力の育成 ○周囲と協調し尊重する人間関係の構築	保健生徒会	生徒会活動・部活動を通して、共に成長する人間関係を築く。	各種委員会での生徒同士の意見交換を充実させ、より良い学校生活を共に作る。 共通の目標に向けて部員1人1人が活躍する場となるよう部活動を支援する。		
		学校環境の整備・生活環境の美化	ゴミの分別を徹底させる。 日常の清掃・大清掃を通じて、衛生や美化に対する意識を高め、環境の整備に努める。		
		健康生活の実践化	身体の健康について理解し、生涯にわたり健康な生活を実践していく力を養う。 健康相談活動を充実させる。		
		性に関する教育の実施	心身の発育・発達について理解し、心と体の健康に関することや多様性に対する知識を深める。 人権尊重の心情を育て、自他の心と体を大切に、望ましい人間関係を築いていくための適切な意思決定と行動選択ができる力を養う。		
	地歴公民	18歳選挙権を踏まえ主権者教育の推進をはかる。	社会の一員としての役割を果たすことができるよう、資料や啓発動画を活用し主権者意識を育む。 生涯を見通した視点で生活を捉え、課題の発見・課題解決能力を身に付けられるよう指導する。		
	数学	数学的な考え方を育てる	基本的な数学に関する用語や定義を理解させた上で、典型例題の解法に必要な定理や公式を確実に身につけさせる。		
	理科	科学的見方・考え方の育成	実験・実習を積極的に行い、科学的探究への意欲を育む。 生活の中の科学を意識させる働きかけを行い、科学的探究に興味を持たせる。		
	保健体育	他者と協力しながら課題解決に取り組む態度を育成する。	ペア・グループ活動を通して協働的な学びを促進する。 互いに認め合う関わりを重視し、安心して活動できる環境を整える。		
	芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり、芸術を愛好する心情を育てる。	幅広い表現活動に取り組ませることで、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけさせるとともに、鑑賞を通して、意図に基づいた表現ができるようにする。 創作意識を高め、芸術の良さや美しさを深く味わうために校内での展示・発表を積極的に行う。		
	英語	協働学習を通じた人間関係の構築	グループ活動やペア活動を通して、互いに協力しながら学ぶ姿勢を育む。 パフォーマンステストを通して、自らの意見や学びを共有する。		
		多面的な思考力の育成	様々なテーマの学習をすることで、世界中の問題や情報への興味関心を高める。		
	家庭	多面的な思考力の育成	さまざまな実習やワーク活動を通して学んだことを実際の生活にフィードバックし、よりよい生活を営む工夫ができるように指導する。		
	情報	多面的・多角的な思考力・判断力の育成。	教科「情報」を履修する目的を認識させるとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めさせる。		
		周囲と協調し尊重する人間関係の構築	SNS上における問題事例を活用した情報モラル教育の指導を行う。		

重点目標		具体的目標	具体的方策	評価	
○学校と地域との連携促進 ○教育活動の発信と開かれた学校づくり	一学年	地域との連携を深める	地域探究を通して、地域の方と積極的に関わる時間を設ける。		
			地域課題に気づき、積極的に地域社会に貢献できるように働きかける。		
	三学年	キャリア教育を通して、社会に出た時の自己の在り方を考える	キャリア教育を通して、社会や集団の一員としての在り方を考える。		
	教務	保護者や地域への情報提供 PTA活動を充実させ、保護者等と学校との相互理解を促進する。	学校全体として体験入学に取り組み、中学生に本校の良さを紹介する。		
			PTA総会・役員会・委員会を通して学校の諸活動に対する理解と協力を求める。		
			保護者等・生徒に有意義な講演会を催し、学校の活動を補強する。 業務の精選、適正化を図り、円滑に運営できる体制を作る。		
	進路指導	行政機関や地元企業との連携を深め、協働的な取り組みを実践する。	1年生を対象に企業見学を実施し、地域の産業や働く意義を学ぶ。		
			2年生の就職希望者を対象にインターンシップを実施する。		
		進路情報の発信を行う。	「進路だより」を発行し、学校HPやメールによる情報発信を行う。		
	保健生徒会	生徒会活動や学校の魅力を校外に発信する。	学校行事や日常の様子をホームページ等で発信し、生徒会活動の様子を提示する。		
成果				総合評価	